
後輩と先輩と

タ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
後輩と先輩と

【Nコード】
N4292T

【作者名】
タ

【あらすじ】
毒を吐く後輩と毒を吐かれる先輩が過ごす放課後の部室でのお話。

「先輩、先輩は地球が本当に丸いと思われませんか？ちなみ私はハートの形をしていると思っています」

2人きりの放課後の部室で、後輩が急に妙なことを言い始めた。まあそれ自体は別に珍しくもなんとも無い。

この後輩は唐突にこのような事を言い出すのである。そして、私はいつもそれに頭を悩まされている。というのも適当に答えようものなら、

「さあどうでしょうね。まあ少なくともハートでは無いと思いますよ？」

「何のひねりもない普通の回答ありがとうございます。とても勉強になります」

といった風に毒舌をかまして来るのである。

一体何に対して勉強になるのか、さっぱりわからない。

しかし、まあこれぐらいはほんのジャブ程度だ。

毎日後輩の毒舌を浴びている私にとっては痛くも痒くもない。

いや、ジャブといっても痛いのは痛いかな。

「せ、先輩い、一体どうしたのですか！！そんな馬鹿みたいな顔して……ああ、元からでしたか」

はい、ストレートきました。

顔面に見事に入りました。

ついでに内容もストレートに悪口です。

「おもしろくありませんよ？」

心の声に対してまで毒を吐かれています。

「声に出してます。末期ですね・・・残念です」

・・・気をつけよう。

「もうこんな時間ですか。暇な先輩と違い私は忙しいのでそろそろ帰ります。また明日も来ますので。では失礼します」

そう言つてさつさと帰っていく後輩。

特に何かをするでもなく、部屋に来ては私に悪口を言つて帰る。

しかも、毎日。

一体何がしたいのだろうか。

「お、今日は１人か？お嬢は来てないのか？」

「今帰ったばかりですよ？」

私の数少ない友人の１人が尋ねてきて早々そんなことをいう。
何か用でもあったのだろうか。

「そうか。それにしてもお嬢、普段男子とほとんど関わらないのに
お前のところには毎日来てるよね」

そうなのだ。

彼女は普段ほぼまったく言っていないほど男と関わりあおうとしない。

学園でも１位２位を争う美人だが、誰かとお付き合いしているという話を一切聞かない。

むしろ、彼女に振られたという話ばかりを聞く。
ちなみにいくら美人でもあんな毒舌を吐く女性が人気があるわけない、思うだろう。

彼女が毒を吐くのは私のみである。

普段の彼女は優しく、気遣いのでき、運動神経もよく、勉強もできる完璧な女性なのだ。

何故、私だけ・・・理不尽だ。

「私のことは男と見てないのでしょうか。というより人と思われてないのでは？」

「はあ・・・お嬢もかわいそうに。まああの態度なら仕方ない気もするが」

何故彼女がかわいそうなのだろう？

かわいそうなのは完全に私だと思う。

「お前が特別だから、お嬢もあんな態度を取るんだよ」

「特別嫌われてるってことですか？」

「はあ・・・お嬢の思いが報われるのはいつになることやら・・・」

何の事を言っているのかさっぱりわからない。

「まあいいや。俺は帰るわ。お前はどつする？飯でも食って帰らないか？」

「私はまだやる必要がありますから。また今度お願いします」

「そうか？じゃあ先に帰るわ。おつかれ」

帰りましたか。

それにしても後輩の思いつて何でしょうか。

私が特別。

悪い意味で特別ではない。

とすると後輩にとって私が良い意味で特別。

つまり……好き？

「ありえませんか。そんなことを口にしたら後輩に殺されます」

自意識過剰すぎます。気持ち悪いです。死んでください。

一度鏡見たほうがいいです。とかなんとか言われるのが落ちでしょう。

ふう、さっさとやること片付けて帰りましょう。

次の日の放課後。 部室にて

「君は私の事が好きなんですか？」

「・・・・・・・・・・」

「な、何故、無言なんですか？い、いつもの毒舌はどうしたんですか？そ、そんなに顔を赤くしてまさか、そんな・・・・・・・・ほんとに？」

「・・・・・・・・・・はい」

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4292t/>

後輩と先輩と

2011年10月7日01時17分発行